



柳田 國男 (六男)
 やなぎた くにお
 (一八七五—一九六一)

明治8年(1875)に兵庫県神楽郡辻川村(現神崎郡福崎町西田原)の松岡家に生まれました。東京帝国大学を卒業後、農商務省に入り、法制局参事官を経て貴族院書記官長となりました。

大正8年(1919)に45歳で退官後、庶民の生活のなかに生き続ける信仰、習慣、伝承、儀礼、行事をたずねて全国を歩き、「郷土研究」「民間伝承」などにより後進を指導し、日本民俗学を創始しました。その研究は海外でも高い評価を得、文化勲章を受け、福崎町名誉町民第1号、正三位勲一等旭日大綬章も授与されました。

また、松岡家からは國男のほか、4人の兄弟達もそれぞれの分野で才能を開花させ、活躍しました。



▲「民間伝承」 ▲「後狩詞記」 ▲「石神問答」 ▲「遠野物語」

生家 (県指定文化財)



柳田國男生家は、田の字型の間取りです。この家に住んだ経験から、國男は「故郷七十年」で「日本一小さい家」と称しています。



▲映丘「生家」

國男の要望を受けて映丘が描いた生家です。この絵は、國男の著作「退談書歴」の見返しに用いられました。

松岡兄弟

医師・政治家

当初教員であったが医師となる。その後、千葉県布佐町の町長も務めた。



松岡 鼎 (長男)

国文学者・歌人

医師井上碩平の養子。眼科医で桂園派歌人。国文学者としても活動した。



井上通泰 (三男)



松岡 静雄 (七男)



松岡 輝夫 (八男)

海軍大佐・言語学者

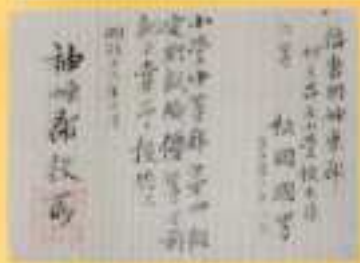
海軍兵学校出身の海軍軍人。退役後は高い語学能力を生かした研究を行った。

日本画家

筆号は映丘。有職改実の研究を行い、大和絵の復興に尽力した。また、弟子の育成にも力を注いだ。

※次男・四男・五男は早世。

主な展示資料



▲國男 定期試験優等証書



▲國男の書面機



▲國男 「故郷七十年」



▲國男 「食料名彙」原稿



▲鼎 「病理総論」



▲通泰 「南天狂歌集」「万葉集新考」



▲静雄 奉職履歴



▲通泰 短冊



▲映丘 「浦の島子」



▲映丘 「物語絵」